

MURC Focus

地方選で大敗が続くドイツ与党

～ドイツの政局不安がユーロ売り要因となる可能性～

調査部 主任研究員 土田 陽介

○ドイツでは中道政党への支持が後退する一方、右派と左派への支持が上昇し、政治がいわば“二極化”の様相を呈している。その大きな要因の一つに、エネルギー価格の高騰があると考えられる。

○2027年に予定されている旧西ドイツの5州での州議会選挙でも右派政党 AfD の勢力が伸長すれば、政権を担う Union の右派回帰に伴う大連立の崩壊の可能性も高まる。

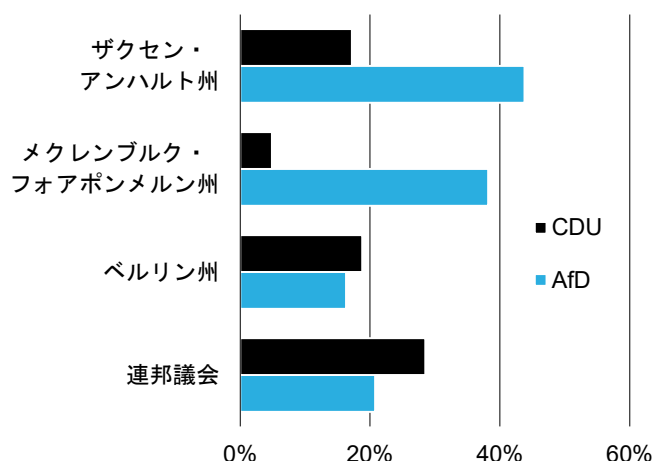
○2027年には4月と5月にフランスの大統領選挙も予定されている。フランスとドイツというEUの両大国での政局が不安定となれば、ユーロ売りが進むだろう。

1. 地方選での大敗が相次いだ与党

ドイツの地方選で中道右派の与党・キリスト教民主同盟(CDU)の大敗が相次いでいる。9月6日のザクセン・アンハルト州に続き、9月20日のベルリン州(特別州)とメクレンブルク・フォアポンメルン州の州議会選挙で、CDU は得票率を大幅に減らした。特にメクレンブルク・フォアポンメルン州議会選挙では、CDU の得票率が4.9%にとどまり、5%阻止条項(得票率5%未満の政党は議席を保有できない決まり)に従い議席を失った。

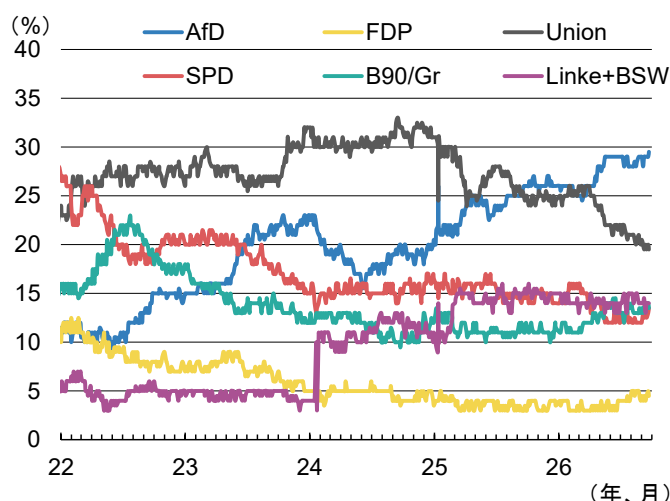
他方で、右派政党「ドイツのための選択枝」(AfD)が勝利を重ねている(図表1)。ザクセン・アンハルト州での得票率は43.8%(前回20.8%)、ベルリン州は16.3%(同9.1%)、メクレンブルク・フォアポンメルン州は38.2%(同16.7%)といずれも得票率を上昇させた。ただしベルリン州の場合は、左派の左翼党(Die Linke)が得票率25.7%(同12.3%)で第一党となり、AfD の党勢を上回っている。

図表 1. CDU と AfD の得票率の比較



(注) 連邦議会は 2025 年総選挙での得票率。
(出所) 各種資料

図表 2. 主要政党の支持率



(注) FDP は自民党の略称。残りの政党の略称は本文中に明記した。
(出所) INSA

有権者の主要政党支持率調査(INSA)を確認しても、CDUと姉妹政党のキリスト教社会同盟(CSU)で構成される同盟(Union)の支持率低下とAfDの支持率上昇が顕著である(図表2)。対して、Unionと大連立を組む社民党(SPD)の支持率も低迷している。代わって、環境政党である同盟 90/緑の党(B90/Gr)や、左派党と立場に近いザーラ・ワーゲンクネヒト同盟(BSW)の支持率は上昇している。

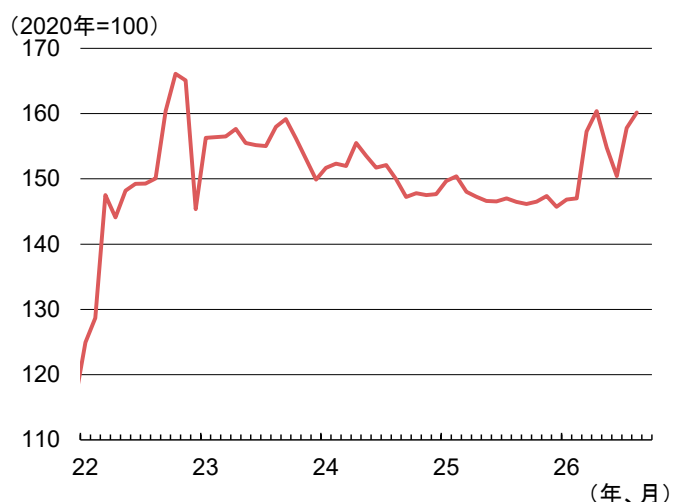
こうしたことから、ドイツでは中道政党への支持が後退する一方、右派と左派への支持が上昇し、政治がいわば“二極化”の様相を呈していることが読み取れる。なお AfD に関しては、いずれの政党も現状では連立協議を拒絶している状況である。ただしメクレンブルク・フォアポンメルン州の場合、AfD が今回の州選挙で 32 議席(定数 71 議席)を獲得しているため、他党との協議次第では AfD が政権を獲得できる可能性がある。

2. エネルギー価格の急騰が与党離れに

CDU や SPD の人気凋落の大きな要因の一つに、エネルギー価格の高騰があると考えられる(図表3)。ドイツのエネルギー価格は今年2月に生じたイラン発のエネルギーショックを受けて急騰。その後は停戦交渉の開始を受けて落ち着くかに見えたが、結局は停戦交渉が決裂したため反発した。特にガソリンなど化石燃料の価格上昇は著しく、ドイツ国民の生活を直撃している。

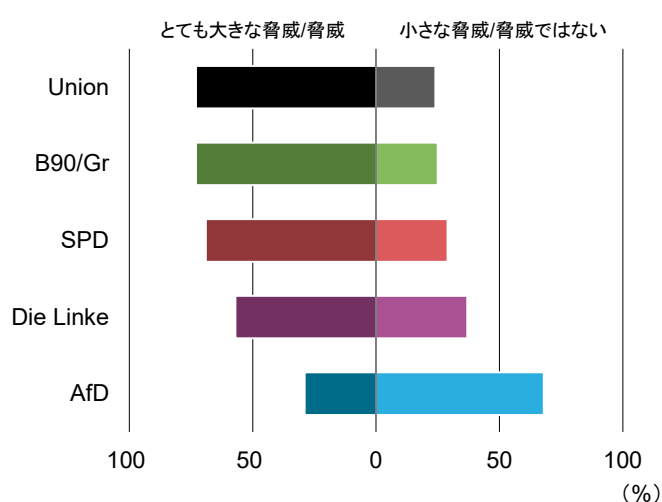
こうした環境の下で問われているのが、かつてドイツに安価なエネルギーを供給していたロシアとの距離感である。AfD はロシアと近く、支持者の中にもロシアとの関係改善を図るべきだという機運が強い。一方、AfD 以外の政党の支持者は、引き続きロシアを脅威とみなす傾向が強い(図表4)。実際、AfD 以外の主要政党はロシアとの関係改善には基本的に慎重な姿勢である。

図表3. ドイツのエネルギー価格(消費者物価)



(注) 各種燃料、電気料金等が含まれる。
(出所) EU 統計局(ユーロスタット)

図表4. 対ロシア意識調査(9月3日時点)



それどころか、フリードリヒ・メルツ首相が率いる中道の大連立政権(Union と SPD)は、ロシアの脅威を念頭に防衛体制の強化に努めている。その反面でメルツ政権は、CDU 所属のカテリーナ・ライヒェ連邦経済・エネルギー大臣と SPD のカールステン・シュナイダー環境大臣の対立もあり、エネルギー供給安定化のための有効な手立てを打てていない。こうした不手際は足元の与党離れにつながっていると考えられる。

不法移民対策への不満も CDU や SPD の人気凋落につながっていると指摘される。とはいえ、メルツ政権は隣接する 9 カ国との間での国境検査の厳格化といった水際対策のみならず、SPD が 2024 年 6 月に導入した「ターボ帰化」制度(特定技能を持つ一部の移民に最短 3 年で帰化を容認する制度)を廃止するなど、不法移民対策を推し進めているため、直近の CDU や SPD の人気凋落の主因とは言えないだろう。

3. 政局不安定を嫌気し始めたユーロ相場

ドイツの次期の総選挙は 2029 年 2 月までに行われるため、州議会選挙の結果が直ちにドイツ国政を揺るがすことはない。一方、ドイツでは、2027 年に AfD の勢力がまだ限定的な旧西ドイツの 5 州で州議会選挙が予定されている(図表 5)。これらの州選挙でも AfD の勢力伸長が確認されれば、政権を担う Union の右派回帰に伴う大連立の崩壊などの可能性も高まる。

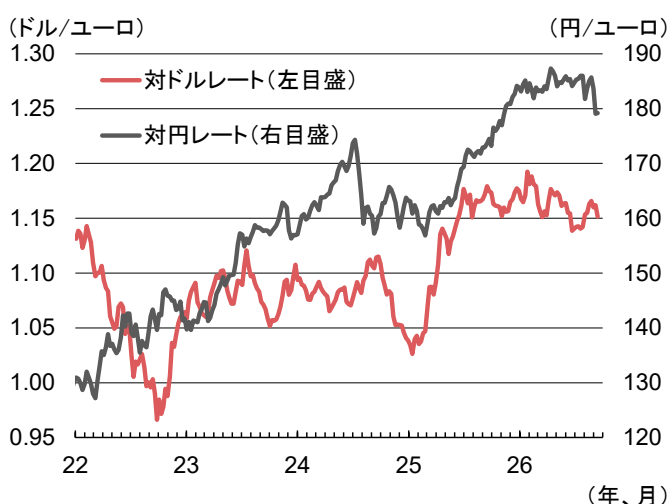
こうした政局の不安定さが、底堅かったユーロ相場の変調をもたらす可能性がある。ベルリン州とメクレンブルク・フォアポンメルン州の州議会選挙の翌日である 9 月 21 日の為替市場では、ユーロの対ドル相場が終値で 1 ユーロ=1.1464 ドルと、前日比 0.17%安となった。欧州中銀(ECB)による利上げ観測などからユーロ相場は底堅く、9 月 20 日の州議会選挙の結果の影響は限定的だったとみられる。

図表 5. 2027 年に予定されている州議会選挙

予定	州	前回得票率(上位 3 党)
4 月 18 日	ザールラント州	SPD43.5%, CDU28.5%, AfD5.7%
	シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州	CDU43.4%, B90/Gr18.3%, SPD16.2%
4 月 25 日	ノルトライン・ヴェストファーレン州	CDU35.7%, SPD26.7%, B90/Gr18.2%
5 月 30 日	ブレーメン州	SPD29.8%, CDU26.2%, B90/Gr11.9%
9 月 26 日	ニーダーザクセン州	SPD33.4%, CDU28.1%, B90/Gr14.5%

(出所) 各種資料

図表 6. ユーロ相場



(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

一方、イラン情勢の緊迫化に伴う“有事のドル買い”が再開したこともあり、ユーロ相場の堅調さは徐々に弱まっている。2027年4月18日と5月2日にはフランスの国政選挙(大統領選挙)が予定されており、波乱が予想されている。こうした中で、旧西ドイツ諸州の州議会選挙でも CDU や SPD の退潮が明らかとなれば、フランスとドイツという欧州連合(EU)の両大国の政局が不安定となり、ユーロ売りが進むだろう。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。